東京都の結核医療提供体制について

資　料　3

（１）都内の結核患者発生状況と結核病床等の現状

都内の結核患者発生状況

令和３年の新登録結核患者数は、令和２年と比べて９０人ほど減少した。

令和２年　患者数　１，４３３人　塗抹陽性者数　４９０人

令和３年　患者数　１，３４５人　塗抹陽性者数　４６６人

≪参考　図１≫

新型コロナウイルス感染症流行の影響により、令和２年２月以降、以下の状況が生じている。

稼働病床数の減少

令和４年３月現在の結核病床数は３７８床。このうち、４病院の結核病床（１２２床）はコロナ病床へ転用され、稼働病床は、リハビリ専門や小児専門病床を除いて１９７床である。

近隣県においても、結核病床が不足しており、同様の状況である。

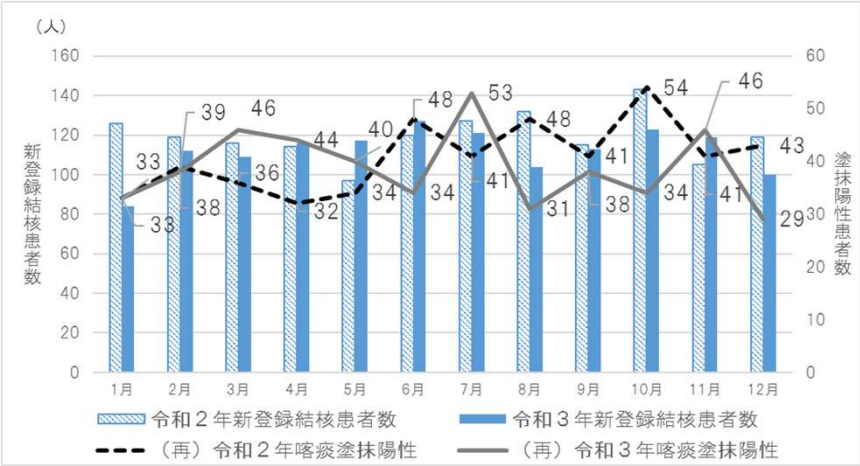
なお、低まん延化していく中、結核病床の増床は見込めない。

≪参考　図２≫ 結核病床空床数の推移より、空床が１０床を切ると、患者の性別や病状、病院の人員体制により入院調整が困難な事例が生じやすい。

合併症や妊婦対応

精神疾患を有する結核患者、人工透析や結核以外の手術やカテーテル治療等の専門的医療が必要な結核患者等の入院調整が困難な状況が継続している。

【図１】都内の月別結核患者発生状況の推移



※患者数、塗抹陽性患者数は、結核研究所疫学情報センター月報から集計したもので実数とは異なる。

【図２】結核病床空床数の推移(各医療機関報告)

※空床情報提供結核病床は、9病院350床のうち、リハビリ専門病院を除く８病院302床の状況

（２）結核病床を持つ医療機関の現状と課題

- 入院時に新型コロナウイルス感染症のスクリーニングを実施するため、最初の数日間は個室入院となり、稼働病床数が限られる。（医療機関から聴取）
- 副作用や退院後の再排菌など再入院の必要が生じる患者も少なくない。
- 塗抹陰性となったADLの低い高齢者が転院できず、入院が長期化している。
- 合併症等、専門的医療が必要な結核患者の対応可能な医療機関が限られる。
- 近隣県からも入院勧告対象患者が多数入院。

（３）対応策

〇結核病床を有する医療機関の機能を把握し、病院機能に応じた結核医療の推進
〇一般医療機関と結核病床を有する医療機関とのネットワーク構築の検討
〇一般医療機関を対象とした、結核治療に関する相談窓口の検討
〇結核患者収容モデル病室の活用の検討

【結核治療に関する相談窓口の検討について】

長期的には、低まん延化に向けて、専門医療機関だけでなく、一般医療機関でも結核患者の対応支援を行い、患者の早期発見、適切な治療の提供を可能とする。